

別表1 令和2年度 拠点間連携共同研究（重点推進研究） 一覧表

課題番号 カテゴリー名 研究課題名	代表者	研究内容
2020-K-1-1 重点推進研究 (総括型) 「巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進」	市村 強 (東大地震研) 松島信一 (京大防災研)	重点推進研究（総括型）では、巨大地震発生時の災害リスク評価の不確実性を明確にすることを目標とします。そのためには、(1) まず各研究分野における知見・モデルの不確実性を定量化し、(2) それらの不確実性を考慮できるリスク評価の枠組みを構築した上で、(3) どの不確実性要因が全体のリスク評価の不確実性に寄与しているかを明らかにすることが必要です。この基本的な評価の枠組みを構築することを目標として、(1)～(3) について検討し、現時点でのリスク評価の不確実性を評価して公に共有するための研究を推進します。
2020-K-1-2-1 重点推進研究 (特定型) (その1) 「ばらつきのある被害リスク評価をふまえた防災計画の検討」	牧 紀男 (京大防災研)	災害リスク評価結果は想定シナリオ・手法により変化します。したがって、防災計画を策定する場合には、災害リスク評価にばらつきが存在することを踏まえる必要があります。そのためには、災害リスク評価のばらつきを理解することが重要であり、また計画の目的に応じて適切な災害リスク評価結果を選択することが重要になります。本研究では、シナリオ・手法の組み合わせにより変化する災害シナリオ評価結果を適切に理解することが可能なシステムの構築を行います。
2020-K-1-2-2 重点推進研究 (特定型) (その2) 「定常的地震活動の震源および地震波速度構造の精度向上による地震波動場推定の高度化」	望月公廣 (東大地震研)	災害リスクを評価する上で、想定される震源からの地震波動場を精度よく把握することが重要です。研究対象領域である南海トラフでは、これまでに実施された構造調査等によって、地震波速度構造が明らかとなってきました。また、ケーブル式海底地震観測網等による海域地震観測により、定常的地震活動の震源精度も向上しました。これらの結果を統合して、より精度の高い地震波動場の推定に資するための研究を行います。

<p>2020-K-1-2-3 重点推進研究 (特定型) (その3)</p> <p>「不確実性を考慮した浅部地盤の非線形応答評価手法の検討」</p>	<p>上田恭平 (京大防災研)</p>	<p>巨大地震時における社会インフラ施設の災害リスクを評価するためには、浅部地盤（工学的基盤から地表まで）の非線形応答を適切に評価する必要があります。この際、土の複雑な応力ひずみ関係を表現可能な構成モデルを組み込んだ数値解析がよく用いられますが、妥当性検証の際に各種モデル化の不確かさが考慮されることは多くありません。本研究では、ボーリング調査や室内土質試験のデータを活用し、種々の不確実性を考慮した地盤の非線形応答評価手法について検討します。</p>
<p>2020-K-1-2-4 重点推進研究 (特定型) (その4)</p> <p>「巨大地震による斜面災害発生個所の事前予測方法の検討」</p>	<p>齊藤隆志 (京大防災研)</p>	<p>地震による土砂災害リスクを評価するうえで、斜面に存在する不安定土塊の位置とその崩壊到達範囲を事前に把握することが重要です。詳細数値地図情報を用い、既往の地震による土砂災害事例から、その崩壊現象発生の初期過程に注目し、不安定土塊の存在箇所を推定する方法の研究を行います。また、地震動の方向性との関係や崩壊がおよぶ範囲について力学的検討を行い、地質調査による情報をあわせて、斜面災害発生個所を事前に予測する方法の研究を行います。</p>